



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.309

2023/2/01

今月の一枚

今月のイベント

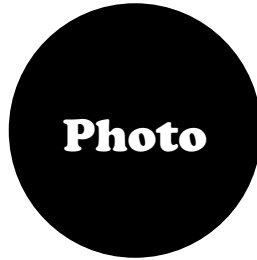
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 苦手を克服!?
02. 日の出、といえば



今月の一枚



「日の出を待つ人々」

表紙写真・文／松田真莉子

元旦の朝早く、初日の出を見ようと車で美幌峠へ向かいました。

初めて見る幻想的な雲海と、徐々に明るくなってゆく空のグラデーションの美しさに圧倒され、これが「天下の絶景」と呼ばれる所以か…！と非常に納得しました。

それにしても、元旦から多くの人で賑わっていた美幌峠。身近にこんなに素晴らしい景色がある美幌町の魅力を、もっと発信していきたいです。

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」 2月4日(土)～3月5日(日)

ロビー展「ひな祭りとひな人形」 2月11日(土)～3月3日(金)

プチ工房「影絵シアターをつくろう」 2月17日(金),18日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「影絵シアターを作ろう」

● 2/17(金),18(土) ① 10:00 開始, ② 14:00 開始, 所要時間 90 分 ※作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1階 講座室 ●参加費 300 円, マスク ●松田真莉子(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-2/16)。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

2月の休館日

6日, 13日
20日, 24日
27日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

苦手を克服!?

写真・文／城坂結実



美幌博物館に勤め始めて、早いもので10数年が経ちました。植物担当の学芸員として、日頃から植物に関わる仕事をして「植物は全部好きです!」と胸を張って言えないのが現実。本音を言うと、日陰の地面を覆い尽くさんばかりにベタ〜ッと張りついているゼニゴケは、少し苦手です。

一昨年、講師に植物研究家の内田暁友さんを迎えて、美幌博物館講座「初心者からのコケ観察」を開催しました。参加者と一緒に、ループを片手に美幌博物館の周りで数種類のコケを観察していたら、薄暗い森の地面を覆うように…いました!ゼニゴケ。ところが、ゼニゴケというのは私の勘違いで、ジャゴケの仲間でした。ジャゴケは表面に蛇の鱗のような模様がある点で、ゼニゴケと区別できるそうです。

目出たくゼニゴケという疑いが晴れたジャゴケでしたが、ベタ〜ッと張り

ついている感じに変わりはありません。そんな中、内田さんから「ジャゴケは最近になって日本に4種類あることがわかり、その香りが種類を決める手がかりにもなる」と、好奇心をくすぐるような話を聞かされました。

こうなったら、嗅がずにはいられません。ジャゴケを手にとって鼻に近づけてみると、美味しそうな松茸の香りがしました。松茸の香りがするものは、マツタケジャゴケの可能性が高いそう。名前もさることながら、香りで種類が分かることに面白さを感じ、それ以来、ジャゴケの仲間を見つける度に、足を止めて香りを嗅ぐようになりました。

苦手は克服した、と思った昨年の秋。古梅地区の森で、大きなジャゴケの仲間(写真)を見つけて観察しているうちに寒気がしたのは、気のせいでしょうか。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

日の出、 といえば

写真・文／松田真莉子



今年最初のコラムは、「日の出」を描いた絵画のなかで最も有名な、クロード・モネの《印象・日の出》(1872年制作、マルモッタン・モネ美術館蔵)をご紹介します。なぜなら、19世紀後半にフランスで誕生した「印象派」の発端ともなった、美術史上とても重要な作品だからです。

当時、主流の絵画には、“主題が神話や宗教・歴史である”“室内で時間をかけて制作されている”“筆触を感じさせないほど、表面が滑らかに仕上げられている”などの特徴がありました。そんななか、モネを含めた若手画家のグループは、太陽の光の下で人々の暮らしや風景を描きました。彼らは屋外で制作することによって、刻一刻と変化する対象の移ろいを、キャンバスに収めようとしたのです。一瞬の表情を捉えるには、素早く一気に描き上げる必要があります。そのため、筆遣

いは大胆で躍動感溢れるものとなりました。また、混色によって彩度が失われることを防ぐために、色を並べて置くように描き、鮮やかな色彩で光を表現しました。

こうした試行錯誤を経て開かれた初のグループ展は、伝統的な絵画の規則からかけ離れた作品ばかりだったため、酷評されてしまいます。なかでも「描きかけの壁紙よりも未完成」などと非難の的となった、モネの《印象・日の出》を揶揄して、グループは「印象派」と呼ばれるようになります。しかし、展覧会の回数を重ねるうちに支持者が増え、その色彩や筆さばきの自由さは、次世代の画家に計り知れない影響を与えていきました。

日本ではモネの連作《睡蓮》の一部を収蔵する美術館が多いのですが、近代絵画の曙となった本作にも関心を持っていただけたら嬉しいです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

時々、愛犬が散歩の際にオナラをします。しかも、人とすれ違う時に！「私じゃないんです」と心の中でつぶやきつつ、もどかしい思いに駆られる瞬間です。